

第5章. 誘導施策

5.1. 誘導施策の考え方

都市機能及び居住誘導を促進するため、下記のとおり、当別町の抱える課題解決の方策に対する施策の方向性を設定し、具体的な施策を設定します。

課題解決の方策	施策の方向性
「町民」にいつまでも住み続けてもらうことで、持続可能な都市を構築する	① 石狩当別駅・石狩太美駅を拠点として都市機能を集約する ② 誰もが使いやすく、持続可能な公共交通網を形成する ③ 地元企業との連携により、地域経済を強化する
「子育て世代」がアクセス性のよい大都市近郊で豊かな生活ができる当別町に居住環境を確保する	④ 子育て世代が当別町で札幌市の都市機能を楽しみ、豊かな生活ができる居住環境を構築する
町外から通学する「北海道医療大学生」に居住してもらうことで、中心市街地活性化を促進させる	⑤ 学生の流入・定住を促進するため、居住支援を充実させる

5.2. 誘導施策の設定

① 石狩当別駅・石狩太美駅を拠点として都市機能を集約する

石狩当別駅と石狩太美駅は、町内各地からのアクセスが良く、すでに都市機能が集積しています。この両駅の周辺地域を都市機能誘導区域・居住誘導区域として位置づけ、今ある機能に加えて、今後の高齢化を見据え、医療・福祉・商業をはじめとした、暮らしを便利にする都市機能を誘導します。また、老朽化した公共施設の建替えに合わせて、町民ニーズにあった機能との複合化や、低未利用地の集約など、安全性とともに利便性を高め、土地利用の高度化を図ります。このような取り組みにより、2つの拠点を中心に、多世代が交流する空間を整備し、町民が「**出かけたくなるまち**」にすることをめざします。

施策の分類	具体的な施策
都市機能誘導に関する施策（都市機能誘導区域に誘導施設を誘導するための施策）	<p>健康で安心して生活するための医療・福祉施設等の誘致及び整備</p> <ul style="list-style-type: none"> 都市機能誘導区域内において、住民が健康で安心して生活するために必要な病床をもつ医療施設が必要です。また、今後の高齢化の進展に備え、生涯安心して暮らすための福祉施設も必要ですので、低未利用地の集約による敷地の確保や公共施設の跡地利用及び都市機能誘導区域内における補助制度の活用等により、これらの誘致や整備を推進します。
	<p>利便性、賑わいを向上させる商業施設(小売業)の誘致</p> <ul style="list-style-type: none"> 都市機能誘導区域内において、都市機能施設のうち、特に現在不足している食料品や薬などの日用品が購入できるスーパー、ドラッグストアを誘致するため低未利用地の集約や公共施設の跡地利用及び企業誘致支援制度の活用により、利便性の向上や賑わいの創出につながる施設の誘致を推進します。
	<p>公共施設の集約・複合化の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> 都市機能誘導区域内において、公共施設更新の際には、機能の集約による利便性の向上と合わせて、施設の複合化により、多世代に渡り、多くの町民が交流する場をつくり、中心市街地の活性化を図ります。合わせて、省エネルギーと再生可能エネルギーの活用により効率的なエネルギー利用を推進します。

② 誰もが使いやすく、持続可能な公共交通網を形成する

当別町は教育機関・医療機関・住宅団地用のバスの一元化、市街地予約型線の運行など、町民の移動の足となる公共交通を便利にすることにいち早く取り組み、公共交通人口カバー率は86%まで上昇しています。今後、自ら自動車等を運転することが困難な町民の増加が想定される中、町民が健康で楽しく暮らすためには、自分で外出（おでかけ）できることが重要となります。

そこで、長期的な視点で、都市機能誘導区域の周辺や公共交通沿線など、利便性の高い地域への居住を緩やかに誘導します。また、町民が安全安心に公共交通を利用できるよう、町民のニーズに応じた不断のバス路線・ダイヤの見直しや、鉄道・バス・タクシーなどの連携の強化、ICTの活用、駅周辺のバリアフリー化などを進めます。このような取り組みにより、誰もが使いやすい、持続可能な公共交通網を整備し、町民が「出かけることができるまち」にすることをめざします。

施策の分類	具体的な施策
公共交通の確保に関する施策	<p>利用者ニーズを踏まえた公共交通サービスの提供</p> <ul style="list-style-type: none"> ・町民の移動ニーズに合わせた「運行路線・ダイヤの柔軟な見直し」や高齢者の外出負担を軽減するデマンド型交通※1の導入等を展開します。 ・町外への移動をサポートするため、JRとバスの結節強化等を展開します。
	<p>地域交通を確保し、自動車を利用しなくても移動可能な環境づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・交通空白地でのデマンド型交通※1の拡充や地域による自主運行の検討に取り組みます。
	<p>公共交通に肯定的な町民意識の醸成と安全安心な移動の実現</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小中学校の児童・生徒や高齢者向けのモビリティ・マネジメント※2の展開により、「公共交通に肯定的な町民意識の醸成と安全安心な移動の実現」をめざします。また、高齢者等の交通弱者の外出負担を軽減するデマンド型交通の導入等の施策の展開を図るとともに、福祉事業者等の関係機関との連携・協力関係を構築します。

施策の分類	具体的な施策
公共交通の確保に関する施策	<p>ICT を活用した公共交通サービスの利便性向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ICT 技術を活用したバスの走行位置が分かるバスロケーションシステムやデジタルサイネージ※3 の導入、デマンド型交通※1 の予約アプリの開発等の展開によりバス待ちの不安解消や予約負担の軽減、来町者向けの情報発信を目的とした「公共交通サービスの改善」をめざします。（当別版 MaaS※4 の構築など） ・JR 札沼線（学園都市線）廃止区間（北海道医療大学駅～石狩月形駅間）の代替交通としてバス路線の新設、北海道医療大学駅でのバスターミナルの設置など、従前よりも利便性が向上した代替交通の確保を行います。
	<p>駅周辺及び幹線道路の歩行空間でのバリアフリー化の促進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者や障がい者が円滑に移動でき、誰もが楽しく出歩けるよう、各駅周辺及び幹線道路の歩行空間のバリアフリー化を促進します。

※1 デマンド型交通

利用者の事前予約に応じる形で運行経路や運行スケジュールをそれに合わせて運行する地域公共交通のこと

※2 モビリティ・マネジメント

多様な交通施策を活用し、個人や組織・地域の移動状況が社会にも個人にも望ましい方向へ自発的に変化することを促す取り組みのこと

※3 バスロケーションシステム・デジタルサイネージ

スマートフォンやバス待合所に設置したモニターにより、バスの走行位置を確認できるシステムのこと

※4 MaaS

ICT を活用して交通をクラウド化し、公共交通か否か、またその運営主体にかかわらず、マイカー以外のすべての交通手段によるモビリティ（移動）を1つのサービスとしてとらえ、シームレス(途切れない)につなぐ新たな「移動」の概念のこと

③ 地元企業との連携により、地域経済を強化する

町民が豊かに暮らすためには、町内での働く場の確保、町外からの来訪者の増加による経済活動の活性化、地域内経済が循環する仕組みが重要です。当別町には、全国的に知名度の高い菓子メーカーなど多くの元気な地元企業があります。そうした地元企業と行政の連携により、町外から人を呼び込むだけでなく、まちと結びつける仕掛けづくりが大切です。そのため、地元企業と行政の連携を密接にすることで、地元企業と町民がともに元気なまちになるように取り組みます。また、2つの拠点を中心とした「出かけたくなるまち」になるには、図書館などの公共施設の整備のみならず、カフェなどの交流の場になるような店舗の誘致も大切です。そのため、都市機能誘導区域内において、空き家・空き店舗の活用や、小規模な飲食店などのスモールビジネスへの支援制度の創設を検討し、そうした「**ビジネスに挑戦する人を応援するまち**」をめざします。

施策の分類	具体的な施策
都市機能誘導に関する施策(都市機能誘導区域内の都市機能の向上のための施策)	<p>地元企業による集客施設の設置(拠点の結びつきの強化)</p> <ul style="list-style-type: none"> 都市機能誘導区域内及び周辺地域において、地元企業が、拠点の賑わい創出に資するような、集客施設を設置・運営するための支援を検討します。 札幌市に隣接している太美市街地や交流人口の増加が見込まれる道の駅の周辺は、観光客の増加に伴う受け入れ態勢の整備や、これに対応する地元企業等の生産体制の強化に合わせて、公民連携による新駅の検討、既存市街地の活用など、「新しいまちの顔」として人の呼び込みにつなげる取り組みを推進します。
	<p>小規模な飲食店などのスモールビジネスへの支援</p> <ul style="list-style-type: none"> まちの賑わいを創出するには大規模施設だけでなくカフェ等の小規模施設も重要な交流の場になることから、都市機能誘導区域内におけるスモールビジネスへの支援制度の創設を検討します。
	<p>空き家・空き店舗等の既存ストックの利活用</p> <ul style="list-style-type: none"> 都市機能誘導区域内における本町及び太美市街地に点在する空き家・空き店舗などの既存ストックの利活用に伴う支援制度の創設を検討します。 都市機能誘導区域内における新規創業促進策として、空き店舗を活用した創業支援スペースを確保し、チャレンジショップ実施の検討を行います。また、空き店舗及び土地情報のデータベース化を実施し、新規創業希望者への情報提供の実施を検討します。

④ 子育て世代が当別町で札幌市の都市機能を楽しむ、豊かな生活ができる居住環境を構築する

当別町は大都市近郊にあり、公共交通による大都市へのアクセス性がとても高く、また、緑豊かなゆとりある宅地での生活ができるという魅力があります。そのため、人々のライフスタイルが多様化するなど様々なニーズの受け皿として重要な役割を果たすことができます。また、町内の子育て世代が快適に、楽しく、健康に暮していくためのまちづくりを進めることは、当別町の魅力の向上のみならず、町外からの移住の増加や、さらには町内の都市機能が使われ、守られるという効果も期待されます。このため、居住誘導区域内において、子育て支援施設の充実や親子で楽しめる公園などの環境整備、一体型義務教育学校の整備、空き家・空き地を活用したゆとりのある宅地の提供、子育て世帯向けの町営住宅の整備、子育て世帯への住宅取得促進の支援を進め、「子育てのまち」をめざします。

施策の分類	具体的な施策
都市機能誘導に関する施策（都市機能誘導区域に誘導施設を誘導するための施策）	<p>子育て支援施設の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> 都市機能誘導区域内において、子ども、保護者同士の交流の場の提供や子育て家庭の不安や悩みの相談などの役割をはたしている子育て支援センターの整備を推進します。
居住誘導に関する施策（居住誘導区域に居住を誘導するための施策）	<p>親子で楽しめる公園などの環境整備</p> <ul style="list-style-type: none"> 居住誘導区域内において、子どもの心身の健全な成長や親子同士の地域でのコミュニケーションの場として、公園施設の計画的な更新・修繕を行います。
	<p>小中一貫教育を実施するための学校の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> 居住誘導区域内において、小中一貫教育推進プロジェクトとして、小中一貫教育の教育的効果を最大限発揮する一体型義務教育学校の建設を推進します。
	<p>空き家、空き地を活用した近隣都市にはないゆとりのある宅地の提供</p> <ul style="list-style-type: none"> 居住誘導区域内において、魅力ある子育て世帯向け住宅の整備に向けて、駅周辺の点在する低未利用地の活用や、空き家のリノベーション等での活用に対する支援を検討し、この町にしかない、ゆとりある宅地の提供を推進します。
居住誘導に関する施策（居住誘導区域に居住を誘導するための施策）	<p>子育て世帯向けの集合住宅の整備及び誘致</p> <ul style="list-style-type: none"> 居住誘導区域内において、子育て世帯向けの利便性がよく魅力ある町営住宅の整備や子育て世帯向け集合住宅誘致のため支援制度の創設等により建設を推進します。
	<p>子育て世帯への住宅取得促進の支援</p> <ul style="list-style-type: none"> 居住誘導区域内において、子育て世帯の町内への移住や定住を目的とした住宅取得を促進するための支援を検討します。

⑤ 学生の流入・定住を促進するため、居住支援を充実させる

町内の北海道医療大学には、昼間 3,500 人の学生が通い、夜間はそのうちの約 1/4 にあたる 900 人が町内に居住するなど、学生は町の賑わいの大切な要素です。一方で、残りの 3/4 の学生は町内に住んでいない状況にあります。学生がまちにいることは、「多様な都市機能を使い・守る」「多様な世代の交流」「将来的な町への移住定住促進」「関係人口の増加」という観点からも重要なことです。このため、居住誘導区域内において、北海道医療大学に通学する学生に対する支援制度の導入、学生アパート誘致のための支援制度の創設を検討し、「**学生がたくさん暮らすまち**」をめざします。

施策の分類	具体的な施策
居住誘導に関する施策(居住誘導区域に居住を誘導するための施策)	学生向けアパート誘致のための支援 ・居住誘導区域内において、北海道医療大学の学生向けのアパートを対象とした支援制度の創設等により学生がより住みやすいアパートの建設を推進します。
	北海道医療大学生向け支援の充実 ・町内に居住する北海道医療大学の学生数のさらなる増加に向け、新入生を対象とした新生活の応援や町内におけるアルバイト先の紹介などの支援を推進します。

⑥ その他の施策

当別町の市街地の多くはいずれも浸水想定区域に含まれており、これらの市街地は今後も都市拠点として重要な地域であることから、本計画における居住誘導区域も浸水想定区域を含むものとならざるを得ません。このため、居住誘導区域内を含むハザードエリアについて、住民にハザードマップ等を通じた丁寧な情報提供を行うとともに、地域防災力の強化等に努め、災害時における迅速な情報伝達手段の拡充についても検討していきます。

また、居住誘導区域内外に関わらず、空き地・空き家等の低未利用地が時間的・空間的にランダムに発生する都市のスポンジ化問題に適切に対応していくことも重要です。それぞれの地域特性に応じて、低未利用地の有効利用や適切な維持管理を促進してまいります。

施策の分類	具体的な施策
全体に関する施策	<p>災害対策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・住民の生命・身体・財産を災害から守るとともに、被害を最小限に抑え、安全・安心に暮らすことのできるまちづくりに努めます。各誘導区域が浸水想定区域になっていることから、ハザードマップの改定・見直しを行い「当別町防災マップ」の改訂版として全戸配布し防災セミナーや出前講座等を通じ、マップの活用について周知徹底を図るとともに、自主防災組織（町内会）等の地域ネットワークを活かした、防災・危機管理体制の整備や地域防災力の強化等、防災体制の強化を図ります。また、最適な ICT など多様な情報環境を活用した災害時における迅速な情報伝達手段拡充を検討していきます。
	<p>低未利用地の有効活用と適正化のための指針</p> <ul style="list-style-type: none"> ・空き地・空き家等の低未利用地が時間的・空間的にランダムに発生する都市のスポンジ化問題に対応するため、低未利用地に対しては、適切な管理を促すだけでなく、有効利用を促していきます。 <p>【利用指針】 リノベーションによる既存住宅の再生及び良好な居住環境整備のための敷地統合等による利用を推進します。</p> <p>【管理指針】 空き地については、雑草の繁茂及び害虫の発生を予防するための定期的な除草や、不法投棄等を予防するための適切な措置を講じ、適切な維持管理が行われるよう、所有者等に働きかけます。</p> <p>立地誘導促進施設協定※に関する事項</p> <p>(1) 立地誘導促進施設の一体的な整備又は管理が必要と認められる区域 都市機能誘導区域又は居住誘導区域</p> <p>(2) 立地誘導促進施設の一体型な整備又は管理に関する事項 居住者等の利便を推進し、良好な市街地環境を確保するために、区域内の一団の土地の所有者及び借地権者等を有する者は、以下の施設の一体的な整備又は管理を適切に行うこと。 種類：広場、広告塔、並木など、移住者、来訪者又は滞在者の利便の増進に寄与する施設等であって、居住誘導区域にあっては住宅の、都市機能誘導区域にあっては誘導施設の誘導に資するもの。</p>

※都市機能や居住を誘導すべき区域で、空き地や空き家を活用して、交流広場、コミュニティ施設、防犯灯など、地域コミュニティやまちづくり団体が共同で整備・管理する空間・施設について、地権者合議により協定を締結する制度